

(外国語活動)

「外国語を使う楽しさを知り、積極的にコミュニケーションを図ろうとする子どもを育てる。」

—読むこと書くことにつなぐ指導の研究—

大阪市立荻田南小学校 藤原笑子

1. 研究主題設定の理由

本校では、「自主的に学習し合理的な思考や判断のできる子ども・助け合い、励まし合って、仲間を

体

切にする子ども・健康で明るく、心身を鍛える子どもを育てる」という教育目標のもと、子どもが互いに良いところを見つけ尊重し、互いに伸ばし合う仲間づくりを目指して教育活動に取り組んでいる。その上で、自分の気持ちをうまく表現したり相手に伝えたりすることが苦手な児童が多いという実態があるため、外国語活動を通して、楽しみながらコミュニケーションを図ることができるようにしたいと考えた。また、外国語活動に焦点を当て研究を行うことで、今年度から移行実施され、教科化される外国語活動にスムーズに取り組めるような力をつけたいと考えたからである。さらに、今年度の研究活動を通して教職員の英語の指導力向上も目指した。

2. 研究の趣旨

本校では2020年度からの新学習指導要領の本格実施に向けて、2年前から大阪市教育センターの研究指定を受け、外国語活動の指導法の研究に取り組んできた。1年目は主に「ネイティブスピーカーの効果的活用」について取り組み、子どもの実態を1番把握している担任がT1となって進める授業を実践してきた。T2のネイティブの役割は正しい発音やリズム指導、子どもの意欲喚起、スモールトークの話者、絵本のリーダーというようになり、T1とT2のそれぞれの良さを生かした授業スタイルが出来上がってきた。2年目の今年度は「読む、書くにつなげる活動」をテーマとして取り組み、「読む、書く」につなげるための、前段階の経験を大切にしてきた。外国語活動以外の時間でも、6年生の修学旅行でのインタビュー活動、阪南高校の留学生との交流、近くのAOTSの研修生との交流、月1回の児童朝会時のENGLISH TIMEなど、英語に触れあう活動を取り入れてきた。ENGLISH ROOMを低学年用に整備したり、絵本等の書籍を揃えたり、階段掲示をしたりと環境面も少しずつ整えてきた。外国語学習が子どもたちの自己肯定感を高め、自信につながるきっかけになり、合わせて国際理解の見地から多様な価値観を受け入れ、人と積極的に交流しようとする態度の育成にもなると考え取り組みを進めている。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 担任主導で進める指導の工夫

- ネイティブスピーカーを効果的に活用しながら、児童の実態や興味・関心を考慮した担任が主導する学習スタイルを確立する。
- Small Talkや絵本の読み聞かせを取り入れた、指導の流れのスタンダードモデルを構築する。
- 外国語に慣れ親しみ、外国語を使う楽しさを経験できるように、各学年に応じたカリキュラムや手立てを工夫していく。

視点② 英語短時間学習の活用

- 週 2 回、いずれも朝の 15 分間を英語短時間学習の時間でフォニックスによるアルファベットの音読み指導をし、定着を図る。
- 低、中、高、それぞれの学年に応じた手遊び歌や絵本の読み聞かせ等も取り入れながら、子どもたちの興味・関心を広げていく。
- 授業内容とリンクさせたジングルやチャンツを取り入れた指導の工夫をしていく。

視点③ アルファベットの音と文字に慣れ親しむ指導の工夫

- 授業で使用する絵カードの絵と文字の比率を学年に応じて変えたり、シャドーイングさせながら文字と音を関連させて言ったりすることで、リズムやイントネーションに慣れ親しませる。
- またジングルを取り入れた活動を授業や短時間学習の中に積極的に取り入れ、アルファベットの音と文字に十分に慣れ親しむ機会をつくっていく。
- 月 1 回、児童朝会時にイングリッシュタイムを設け、全学年が英語に触れる機会をつくる。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 低・中学年では、英語の大型絵本を使ったり、デジタル教材の中のチャンツを効果的に使ったりすることで、子どもたちの興味・関心・意欲を高めることができた。
- 高学年では C-NET のスモールトークを授業の中に取り入れ、まとまった英語を推測しながら聞く活動を通して異文化理解も深めた。
- 低学年は色や動物などの簡単な英語をゲームやチャンツの中で担任と一緒に楽しく話し、中学年では担任や C-Net、友だちと英語でのやり取りをし、簡単なリアクションもできるようになった。
- 高学年では、友だちとのスモールトークを毎回の授業や、短時間学習の中に取り入れるようにした結果、簡単な会話のやり取りが続くようになった。
- Dream を使った指導に加えて、授業とリンクした指導内容の充実に努めた。低・中学年では絵本の読み聞かせや、チャンツや歌などで楽しく英語活動を行うことができた。
- 高学年では、授業で使う英語をフラッシュカードやデジタル教材の中の絵カードで復習したり、読み書きにつながるジングルをデジタル教材で視聴して、一緒に発音したりしたことで、英語のリズムを感じながら話すことにもつながった。
- 英語短時間学習の時間には、教員もできるだけオールイングリッシュを目指してやってきたので、英語に苦手意識のある教員も 15 分の短時間から取り組むことにより、少しずつクラスルームイングリッシュを使つての指導に慣れてきた。

(2) 今後の課題

- タブレットを使った ICT 機器の効果的な活用について十分議論できなかったので、来年度以降、積極的に活用していきたい。
- イングリッシュルームを効果的に活用していく。
- 主体的で対話的な深い学びになるような場の設定の工夫を進めていきたい。
- 英語指導力向上を目指し、教員の研修機会をできるだけ多く設けていきたい。